

編集後記

本文33ページの「寄せ屋大竹屋さんの孤独な死」を書いた高吉敬一さんは、現在は益食堂の手伝いをしてないそうです。

こんなことわりを入れるのも、この「渡世」がとてつもなく遅れたからで、多くの読者は、何があったのかと、アレコレ想像していたかもしれないと思います。しかし、この号が遅れたのは、ただ、ただ編集委員がサボったからにほかなりません。文中に、編集委員の一人である日野さんが、謝罪文をのせてますが、今度の号に関しては、全員の責任であると思っています。こういった事態をなくすためには、編集委員会に、新しい空気が必要かと思っています。

どうか、読者の中で、われこそはと思われん方の参加のあることを願うしだいです。

文章の書ける人は、文章を。手の出せる人は、印刷・製本を手伝ってくれることを願います。

モチロンといってはなんですが、金銭的報酬は期待しないでください。……こんなこと書いたら誰もこないだろうな、やっぱり……

渡世取り扱い店 (七九年五月)

大阪・益ヶ崎 かとり

丸中商店

千石書房

いこい食堂

希望の家

ふるさとの家

大阪・梅田 梁山泊

東京・山谷 長瀬書店

新宿 模索舎